

独自の海外留学支援

付属中2年生 第1期説明会 希望2人に各100万円

太田一高 来年募集

県立太田一高(常陸太田市栄町、鈴木清隆校長)は独自の海外留学支援制度を設立し、5日、第1期生の対象となる同高付属中2年生36人への説明会を開いた。1年間の留学を希望する生徒2人に対し、1人100万円を支援する。同校などによると、全国的にも極めて珍しい手厚い留学支援になっている。



海外留学支援制度などについて説明する横山教育奨学会の大森眞一理事長(右)＝常陸太田市栄町

同高卒業生で、元日立化成工業(現日立化成)社長を務めた故横山亮次氏が創設した「横山教育奨学会」(大森眞一理事長)の支援を得て実現した。同奨学会では、これまでも同校の発展向上に資することを目的に、成績優秀生徒に奨学金の支援を行ってきた。

同校では教育目標の一つとして英語教育の重点化を図っており、世界に羽ばたく生徒を育む取り組みの一つとして期待している。同支援制度は来年4月に、同高校付属中学校3年生と同高校1年生を対象に募集を開始し、2023年夏の出発を予定。同高校1、2年生の留学を支援することになる。留学先は生徒の希望する国になるといふ。

説明会では、大森理事長が創設者の横山氏の経歴や人柄などを紹介。会社役員

の退任で同市に居を構える際に、同級生からの「地元に戻るなら太田の町に恩返しのできるものを考えては」との提案を受け、同奨学会を1998年に設立した経緯などを説明した。

大森理事長は生徒を前に、「見聞を広げるには外に出るのがよいこと。どこかの国でも行けるチャンスがあれば行ってほしい。今から夢を持って行動してほしい」と期待した。

鈴木校長は「1年間のサポートをこれだけできるシステムは全国的にもないのでは。異文化に飛び込み、世界の広さを実感し、どんな社会貢献ができるのかを考える機会にしてほしい」と話した。(飯田勉)